

「VIEW21」をお読みいただいている先生方には、平素から多くのご指導をたまわり、心から感謝を申し上げます。

ベネッセコーポレーション高校事業部は、生徒の成長を第一に願い、先生方のご指導のお役に立つために、私たちに出来ることは何かをずっと考えて参りました。

今、世の中は激しく変化をしています。10年先の未来がどうなっているのかを確実に予測することは不可能です。そのような状況の中、高校教育では「変えてはならない不易」をしっかりと見据えつつ、「変わるべきこと」をとことん考え、半歩を踏み出す勇気が求められているのではないかと思います。

子どもは「未来からの留学生」です。彼らが生きる未来を想像しながら、私たちは、これからも学校に寄り添い、それぞれの学校が前進するために出来ることは何かを考え抜きます。そして、微力ではありますが、教育貢献につながるご支援が出来るよう努力をして参ります。

今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。

(株)ベネッセコーポレーション  
高校事業部長 **山崎昌樹**

## グローバル時代を生きる 高校生を いかに育てるか

日本の人口は、2060年には9000万人を切り、生産年齢人口（15～64歳人口）は現在の8173万人から4418万人に減少すると予測されている（\*）。この先50年の間に、少子高齢化は進み、生産年齢人口が激減する中で、日本人の労働力のみを頼っているのは、国内経済の維持・向上が難しいことは自明だ。

また、日本の若者の「内向き志向」がよく話題に上る。周囲との摩擦や衝突を避ける傾向があることを、高校現場の先生方から聞くことは多い。

しかし、日本のそうした課題の無にかかわらず、世界のグローバル化は確実に進行しており、今の高校生世代は、いや応なしにグローバル化した社会を生きていかなければならない。

グローバル時代を担う高校生が、身に付けておくべきものは何なのか。3年間の高校教育の中で、どう指導すればよいのか。

正解はないが、日本人や日本の学校教育特有の良さを生かしつつ、グローバル化に向けて試行錯誤を続ける社会人や、挑戦し続ける高校現場の事例を通して、半歩踏み出すためのヒントを共に考えたい。